

公表

## 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	吉備の里ぼけっと		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が楽しみながら学び、心の成長ができるように子どもの声に耳を傾け、受容し認めながら、職員が統一した思いで携わっていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>放デイ療育終了後、必ず振り返りカンファを行い、支援の見直しや良かった点の共感など、統一した支援が出来るように実施している。</li> <li>定期的に、外部講師の専門的視点からの助言を受けることで職員のスキル向上を目指している。</li> <li>肯定的な声掛けややる気を起こさせるようなポジティブな言葉を使うように心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の振り返りカンファへ参加できない職員については、振り返りノートで確認をしてもらう。また、月1回の職員会議は全員出席ができるよう勤務調整を行っている。</li> <li>外部や法人内部研修会へ積極的に参加し、所内で伝達研修を行うことで個々のスキルを上げていく。</li> </ul>
2	環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館を活用することで、天候に左右されず運動課題に取り組める。運動で体を動かすことで、気持ちの発散に繋がっている。</li> <li>農園で季節の野菜を育てる経験ができる。</li> <li>学習面では、学習アセスメントツールの検査を実施し、その子にあった学習方法を取り入れている。また、お子さんによっては個別対応を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが安全に安心して過ごすことができるように危険への配慮を怠らないようにしている。</li> <li>農園管理について：年間の作付け計画を立てることで経費面で無駄な出費を抑える。</li> <li>苦手な科目や学習内容に合わせた教材を工夫し提供している。</li> </ul>
3	所属学校、こども園へ訪問をすることでクラスでの様子や学習状況など先生と情報共有を行うことで、その子に合わせた必要な支援内容を考える。また、家庭や療育の役割など連携の糸口とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の方へ訪問内容を伝えることで安心感を持っていただき、更に、療育で取り組んでいる課題や支援内容を確認しながら進めていく。</li> <li>子ども達の成長や課題を参考にして、支援内容の参考にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属学校、こども園と保護者のパイプ役となり子どもたちが安心して過ごしやすい環境づくりを目指す。</li> <li>専門的な視点で訪問先へ助言・アドバイスが出来るようスキルを高める。</li> </ul>
4	送迎を行うことで、保護者の負担感を解消している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドアツードアでの送迎を行うことで安心安全に送り届けることができる。</li> <li>運転専門員を確保することで安全運転を心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まもるくんエース（車内後部座席に子どもの置忘れがないか車内点検ブザー）車両使用。</li> <li>法人内の交通安全研修会へ毎年参加することで交通安全への意識付けを図る。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行うことで保護者と対面で会う機会が減少するため、療育での状況などお話をする機会を設けたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡帳を活用し状況をお伝えしているが、時間の関係上内容が簡易になりやすい。また、内容が事業所からの一方的な内容になりやすい。（家庭からのコメントが少ない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムリーで伝えないといけない内容など電話連絡やlineなど使用している。</li> <li>連絡帳記載に時間を要する為、ICTシステム導入を検討したい。</li> <li>親子行事や保護者交流会など開催している。</li> </ul>
2	他の療育事業所や学童との関わりが少ない。また、保護者同士の交流する場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育交流会を年1回開催されているが、療育間での連絡（連携）や研修的な学びの場を増やしたい。</li> <li>保護者の横のつながりが薄い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童へ視察を行い、実態を把握をする。長期休暇を利用し交流の場を検討したい。</li> <li>年間行事の中で親子行事の設定等を取り入れる。（保護者同士が関わりが出来る企画を考える。）</li> </ul>

3	専門性の高い職員確保。	<ul style="list-style-type: none"><li>・姿勢維持や体のしくみや機能、心のケアなど専門的な視点からアプローチができれば、子どもの心身の成長に活かすことができる。</li><li>・将来的に、医療ケア児の受け入れができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・理学療法士や心理士など専門的分野の人材確保が出来るように働きかけを行う。</li></ul>
---	-------------	--	---